

令和 6 (2024) 年度  
一般選抜後期日程 試験問題  
人間健康科学部 看護学科

# 小論文

## 注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
- 2 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- 3 解答には鉛筆かシャープペンシルを使用してください。
- 4 問題は全部で4ページ、解答用紙は全部で2枚あります。
- 5 試験時間は90分です。
- 6 試験終了後、問題冊子も回収します。
- 7 何か伝えたいことがあるときは挙手してください。

第1問 次の文章を読んで、設問に答えなさい。

私たちがケアに従事することは、ケアされる人が成長していくための契機としてだけ重要なのではなく、ケアを実践する私たちにとっても重要である。「私は、自分自身を実現するために相手の成長をたすけようと試みるのではなく、相手の成長をたすけること、そのことによってこそ私は自分自身を実現するのである」。私たちは、メイヤロフの言葉を肝に銘じなければならない。ケアする人とケアされる人との相互性を強調することが、ケアの基本的な態度であると言うべきである。さもないと、ケアはたんなる「自己犠牲」と重なり合い、相互性ではなく、一方通行の関わりになってしまう。

しかし、ケアの相互性を強調すればするほど、ケアの対象を《人間》に限定しなければならなくなるのではないか、という疑問も生じてくる。なぜなら、ケアする相手が人間であれば、お互いの意思や意図も何らかの形で伝達でき、その結果、相互性も確認できるからである。ところが、「ケアの対象」がペットのような動物であったり、さらにはアイデアや理想であったとき、それらと私たちとの間にケアしケアされるという相互関係は成り立たないように見える。

この問題に答えるために、メイヤロフは、「人をケアすること」と「人以外のものをケアすること」とを分けて考え、さらに、「人をケアすること」の中に「他の人をケアすること」と「自分自身をケアすること」とを分けている。このとき、メイヤロフは、「人以外のものをケアすること」について、アイデア、芸術作品などの「もの（＝生物以外のもの）」をケアすることと考えており、動物やペットをケアすることについては言及していない。

しかし、ペットもまた私たち飼い主をケアすることもあれば、ペットが私たちによってケアされることもある。その意味で、「ケアの対象」として、彼ら・彼女らも十分な資格を持っている。

中略

私たちは、「相手の気持ちになる」という場合、自分自身を〈他者〉に投影し、〈その人〉を哀れんだり同情したりする場合を考える。しかし、「相手の気持ちになる」といっても、「自分自身を見失うわけではない」。また、「その人の目でもって見てとる」ということは、その人と同じものを見、同じ反応をするということの意味するわけではない。それでは、私と他の人との区別がつかなくなってしまう。そんなことはありえない。

〈私〉と〈他者〉（＝他のもの）とは異なる存在である。だからこそ、〈私〉は〈他者〉を援助し、ケアすることができる。ケアを通じて、私たちは、〈他者〉ができないことを行う。メイヤロフは、「彼が困惑していることを認識するには、私が困惑しなければならないということではなくて、私が内面的に彼の困惑を“感じる”がゆえに、私は彼をその状態からたすけ出すことができる位置にいるのである」と言う。私たちができるのは、〈他者〉が見て

いるものや考え望んでいることを「感じ」、今の状態から抜け出すように援助することである。

そのためには、〈私〉と〈他者〉との差異を明確に認識していなければならない。そして、差異を意識すると同時に、〈他者との関係性〉を、たんに「隣にいる」という物理的な関係性に解消しないような形で自覚することである。

〈私〉と〈他者〉は別々の存在でありながら、ケアすること・ケアされることという〈ケアという関係性〉においては、両者は同じ場所を占める。「ケアにおいては、私たちは相手の人を、自分とは別個の対象と感じとらえているのであるが、同時に、私たちと一体をなしているともとらえている」。このような〈私〉と〈他者〉との関係を、メイヤロフは、「差異の中の同一性 (Identity-in-Difference)」と呼ぶ。

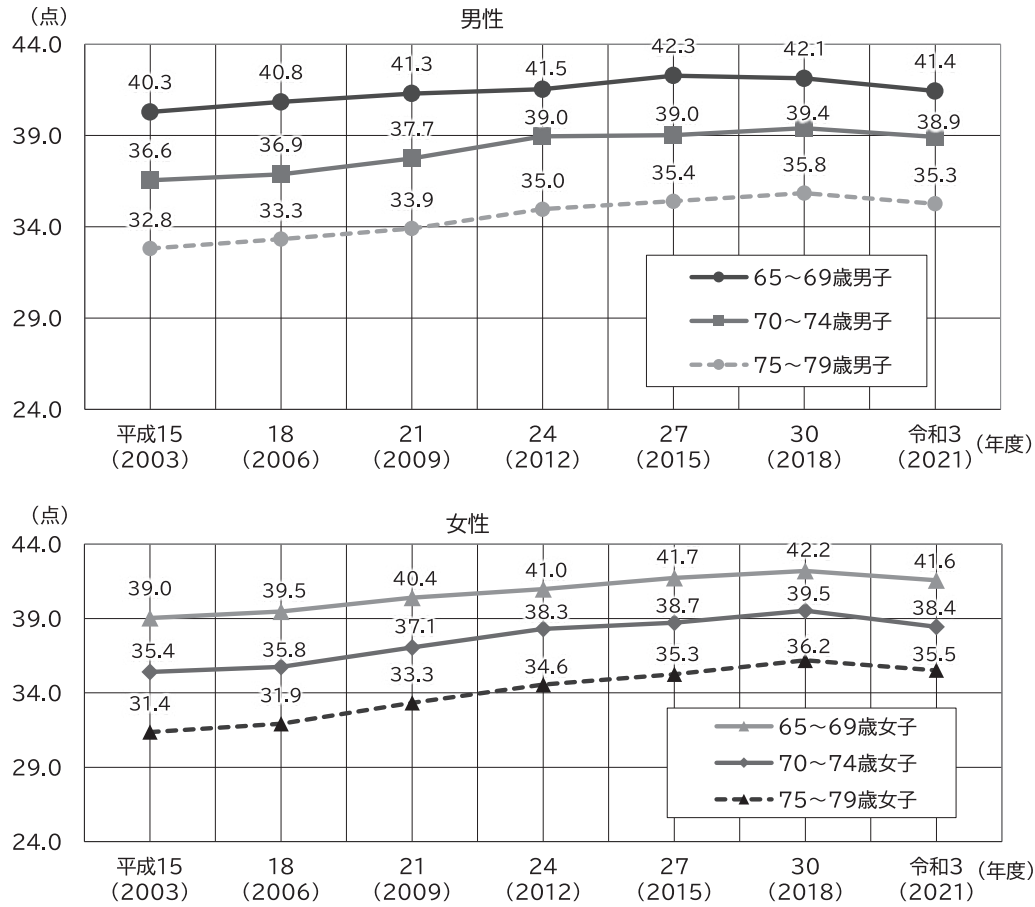
そして、メイヤロフは、ケアにおいて「相手とともにいるということは、とりもなおさず相手のためにいることでもある」とも言っている。私たちのケアは「隣にいる」ということだけではなく、「相手のために隣にいる」ということでもある。それ故、ケアの実践とは、まず「相手とともにいること」であり、しかもそれは、「相手のためにいること」である。ケアの実践のあり方や〈ケアという関わり方〉こそ、ケアすることである。すなわち、「広い意味でいえば、“相手とともにいる”ことは、ケアすること自体の過程を特徴づけている。すなわち他者をケアしているときに、私たちは外側から彼について知るのとは全く対照的に、彼独自の世界の中で、基本的に彼とともにいることができているといえるのである」。

(出典) 森村修『ケアの倫理』p86 - 89, 大修館書店, 2000

設問 課題文をふまえて、自分自身の身近な人との関わりを例として、ケアとはどのようなことかを 600 字以内で述べなさい。

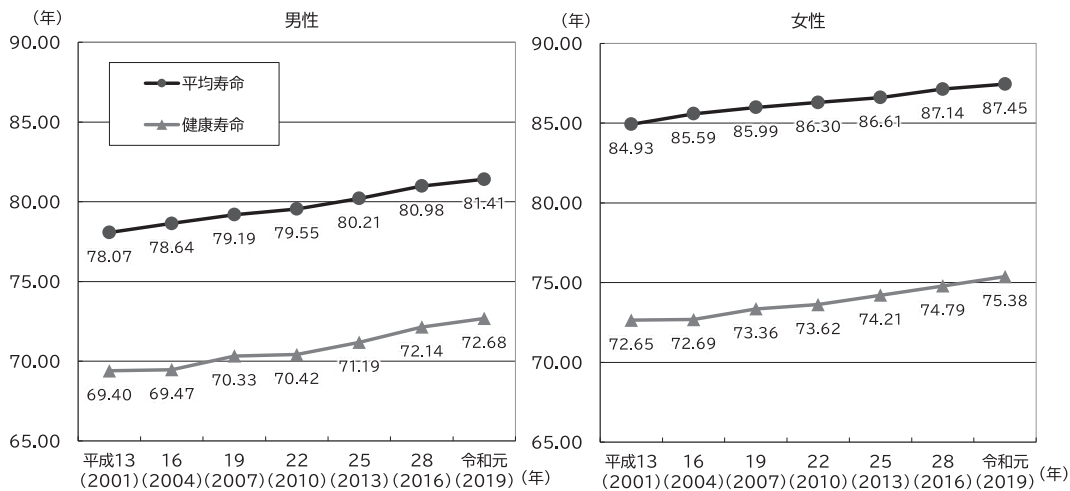
第2問 以下の図を見て、問に答えなさい。

(図1) 新体力テストの合計点



資料：スポーツ庁「体力・運動能力調査」  
 (注1) 図は、3点移動平均法を用いて平滑化してある。  
 (注2) 合計点は、新体力テスト実施要項の「項目別得点表」による。得点基準は、男女により異なる。  
 (注3) 令和2年度は新型コロナウイルス感染症のため実施時期や標本数等が異なる。

(図2) 健康寿命と平均寿命の推移



資料：平均寿命：平成13・16・19・25・28年、令和元年は、厚生労働省「簡易生命表」、平成22年は「完全生命表」  
 健康寿命：厚生労働省「第16回健康日本21（第二次）推進専門委員会資料」

出典：内閣府「令和5年版高齢社会白書（全体版）（PDF版）」pp.26-27，一部改変

(注)

- \*新体力テストの合計点を構成する項目：握力、上体起こし、長座体前屈、開眼片足立ち、10m 障害物歩行、6分間歩行
- \*平均寿命：「0歳における平均余命」のこと。
- \*健康寿命：健康寿命とは、健康上の問題で日常生活に制限のない期間を表す指標。

設問1 図1から読み取れることを100字以内で述べなさい。

設問2 図2から読み取れることを150字以内で述べなさい。

設問3 図1、図2を踏まえて、健康寿命を延伸させるために、どのような取り組みが必要か、あなたの考えを400字以内で述べなさい。